



社会新報 (岡山県連合版)

2016年9月1日
(毎月1日発行)

社会民主党全国連合機関紙宣伝局(毎週水発行)
〒100-8909 東京都千代田区永田町2-4-3
TEL03-3592-7515 1部180円月700円千160

岡山市北区弓之町5-7 Tel.086-226-1234

発行責任者 武本恒夫

http://www.sdp.or.jp/okayama/index.html e-mail: sdp_okayama@helen.ocn.ne.jp

戦争法廃止の行動を続けている市民団体がマイクリレー「安倍法制違憲訴訟おやかま」の奥津巨井護士は「第一次原告団402名の裁判が始まる(第二次も準備中)。一緒

違憲なものはいくらでも イケンじやろう

戦争法廃止へ私たちはあきらめない



8月19日 岡山駅前での総がかり行動

昨年9月19日に安倍政権が「戦争法」を強行してからもあきらめず、あらためて廃止を目指してこれまでも戦い続けてきた。ストップ戦争法総がかり行動は8月19日、戦争法廃止の街頭アピールを行なった。もうすぐ9月と言っても厳しい残暑が続く、それを避けて夕方6時半から1時間、週末の仕事帰りにビール一杯に向う人やクラブ活動を終えて帰る高校生らが行き交う岡山駅前から訴えた。

教育現場の女性教師は「教子を再び戦場に送るな」は戦後打ち立てた願いであり誓いだ。この当然のことが政治的中立性を損なうと、通告するよう自民ホームページで呼

赤磐の市民団体(女性)からは「憲法とか政治は生活とかけ離れていると思うかも知れないが、日々の生活が法律で守られ、その元に憲法がある。それが知らないと、大それた力が切られようとしている。憲法12条には「自由及び権利は不断の努力」で守る必要を書いている。あなたが必要とするのではなく、一緒に憲法について考えよう」と話しかけた。

戦争法の違憲性を明瞭にしよう」と呼びかけ「戦後71年の縛りがあったから。これを変えようとする自民憲法草案は軍隊を持ち、緊急事態条項を設け政府の思うとおりの法律をつくり国家統制で人権や生活を脅かされる」と裁判闘争の意義を訴えた。

人ひとりが考え 声を上げることに!

【寄稿】

「新しい判断」がまかりとおる”に思う

「大分県警が隠しカメラ」、8月4日の「朝日」が、社民党や民進党、労働組合などが事務所を置く施設を「盗撮」していたと報じた。県警をはじめ、個別事案で「特定対象者の動向を把握するため」として、あくまでも「公有地と勘違いして他人の敷地に勝手に入った」ことに謝罪はしたが、「盗撮」自体は正当だとした。その後、「特定公務員の選挙活動監視」のためとしたが、「違反」がおきることを前提にした見込み捜査であり、事件のテッチ挙げ、人権侵害につながりかねない行為だ。これがまかり通るなら、戦前の「おい、コラ!警官」復古とは言うても過言ではなからう。アベノミクスの失敗による政策の変更を「新しい判断」といい逃れるのと同じだ。

そう言えば、自民党内規で総裁の任期1期3年、最長2期6年の定めを改変しようという。オリンピックもやってもらおうという動きもあるようだ。自民内規とはいえ、権力の長期化は独裁や腐敗を生むと一定の基準を設けたはずが、それをトップの意向に沿うよう都合よく変えることに、ある意味での「立憲主義の否定」との批判も起きているのは至極当然だろう。それとも、これも「新しい判断」ということか。

2016.8.20 岡本



県連合は8月24日、第4水曜、定例の街頭宣伝を続け、参院選お礼と戦争法廃止や脱原発を訴えた

かけていた。密告は生徒までも萎縮させ、監視社会をつくるもの」と危険な流れを批判した。
1000人委員会の大石和昭弁護士も「のどもとに刺さ

党県連合の主な行動

- 7/28 県常任幹事会
- 8/1 党中国ブロック幹事会(岡山)
- 8/2 5区井原支部会議
- 8/3 (12:30) アベ政治は許さない総がかり
- 8/4~5 原水禁・広島大会(10名)
- 8/6 4区支部会議
- 8/13~15 党県連合お盆休
- 8/19 ストップ戦争法総がかり行動
- 8/28 党県連合常任幹事会
- 8/31 さよなら原発幹事会
- 9/9 全国連合代表者会議(武本)
- 9/18 高梁市議選告示(25投票日)

つた戦争法のトゲを抜こう。平和的生存権、人権が壊されようとしていることに怒りを持とう。もう一度憲法を考えよう」と訴えた。
(報告文責・野崎)

「新報」読者会
9月13日(第2火)18時
弓之町1時(第3金)18時
9月21日(第3金)18時
※聞きたい・話したい人歓迎
いずれも岡山社会文化会館

定例学習・読者会

「新しい判断」といって、核と人類は共存できないという警報と心したい。(の)

「人が来た」と言ってる村人があわてる様子をみて喜んでた少年が、放蕩に才オカミが来たとき、「またウソだろう」と相手をささず最後は「ご存知の「イソップ寓話」▼悲劇的な話も、現代の「オカミ大人」はさらに深刻だ。高速増殖炉もんじゅが半年も警報を出しながら「いつもの警報」に慣れた現場では、この間対策もなく放置されていたという。「安全文化の欠如。どうやっていいか分からない」(原子力規制委・田中委員長)と唾然、では済まない。核事故が、地域や時間を越えた計り知れない被害をもたらすことは学びに足りる▼「オカミ少年」はさておき、核に対して「怖いよ。危ないよ」と繰り返すことこそ意味がある。なぜなら、フクシマに学ぶことなく原発再稼働が進められているからだ▼さらに危険なことはアメリカの「核先制攻撃不使用宣言」に安倍政権が反対したという報道こそ唖然とする。核と人類は共存できないという警報と心したい。(の)

